

野球で育む愛

放課後の広安小学校のグラウンドでは、「広安野球クラブ」に所属する小学生たちが練習に励んでいます。その様子を温かく見守るのは、寺中地区から足繁く通い指導を行っている、監督の荒牧典昭さんです。

荒牧さんは長年、町の子どものための野球指導に尽力してきました。「私自身は中学時代に野球を経験しただけですが、保護者の方たちから熱心に指導の依頼が寄せられて。大切なお子さんを預かるわけだから無責任なことはできないと、30数年前にプロ野球選手会が主催する指導者講習会で勉強した後で指導に当たってきました」と振り返ります。

ウォーミングアップが終わると、バットを手にした監督のノックが始まりました。子どもたちの動きは機



「子どもたちの成長が楽しみ」という「広安野球クラブ」を率いる監督の荒牧さん



「変顔は得意だけーん」とおちゃめな顔でカメラの前に集まった同クラブの高学年のメンバー

敏です。グローブにボールをおさめて正確に投げ返す速さとコントロールの良さは、日々の練習のたまもの。チームには女の子も所属し、男の子顔負けのパワーをみなぎらせています。一汗流した後で荒牧さんは「私たち夫婦は子宝に恵まれませんでしたが、こうして人さまのお子さんの成長を見守ることができて幸せです。大人になったOBたちが訪ねて来ることもあり、それがまた夫婦の楽しみになります」とうれしそうに話します。ちなみに練習試合ともなると、監督の荒牧さんより、応援席で声援を送る奥様の幸子さんの方が熱が入るそうです。



荒牧監督のノックに子どもたちは機敏に応えます

未来ある農業者

寺中地区の北側を貫く、農免道路沿いの畑で、ニンジン栽培に汗を流す荒牧宏次郎さんに出会いました。掘ったばかりのニンジンはコロコロとして太く、栄養満点です。

宏次郎さんは18歳から、父親の政文さんと農業に従事してきました。現在は10丁ほどの畑を抱えキャベツや米、麦などを生産する忙しい日々です。「消費者の声を直接聞けるとやりがいを感じます。新米の季節になると『待ち遠しいです。早く食べたい』というお客さま



明るくて礼儀正しい子どもたち。「こんにちは!!」と気持ちのいいあいさつをしてくれます

の声に励まされます」と話します。近ごろ友人の結婚式に出席し「結婚もいいなあ」と思うようになったとか。というわけでただ今、お嫁さん募集中です。

そんな宏次郎さんの趣味は野球。